

あけまして、おめでとうございます。本年が皆様にとってよい年になりますように。

辰年は十二支の中で唯一架空の動物です。中国の古典「礼記」によると、この世の動物たちの長だと考えられていた4つの霊獣に麒麟、鳳凰、靈龜、竜があり、竜は変幻を表すと言われます。変幻自在とは思いますが、日本列島はその姿から竜に例えられることがあり、今の日本はまさに手負いの竜のようです。私たちにできることは、日本の復興は必ず実現すると信じてそれぞれの日常をこなしていくことです。

江戸時代の名僧、良寛の言葉に「災難に逢う時節には災難に逢うがよく候。死ぬ時節には死ぬがよく候。」とあります。今まで、私はこの言葉の意味がよく分からなかったのですが、災難や死という自分にはどうしようもできないことを受け入れるには、一生懸命生きなさいという意味ではないでしょうか？

【最近目立つ病気】

昨年末から流行中のマイコプラズマ感染症は依然として流行中です。今回の流行は、マクロライド系抗生剤に耐性のマイコプラズマによるものです。従来、有効だったマクロライド系抗生剤が効かなくなったことで罹病期間が延長し感染の機会が増えたことが主因です。

アデノウイルス感染症や手足口病が流行中です。以前は夏にみられることが多かったのですが近年は一年中みられるようになりました。ウイルスの世界も人間社会の変化とともに変わっているのでしょうか。昨夏の手足口病は発疹の分布が典型的でなく、罹患後に爪が剥がれるなど従来のタイプとは異なっていました。現在流行中のものは典型的な発疹分布です。すなわち手のひら、足の裏、肘、膝に紅色丘疹～水疱が、口腔粘膜にアフタがみられます。

溶連菌感染症、水痘も流行中です。溶連菌感染症は、免疫がつかないので短期間に繰り返し感染する場合があります。うがい、手洗いといった基本的な衛生習慣が重要です。蓄膿などの慢性感染巣がある場合や指しゃぶりがあがる場合は繰り返しの感染がみられやすいです。また、症状として初期に吐き気や嘔吐がみられやすいため感染性胃腸炎の初期症状と見分けがつきにくいことがあります。この場合は、咽頭粘液を採取しての迅速検査で判断します。

ノロウイルスなどのウイルス性胃腸炎は、例年ほどの流行はなかったのですが、年末から急に目立つようになりました。これに対しても、うがい、手洗いが大切な予防手段です。手洗い後のタオルは共用せずに個人ごとに専用のタオルを使ってください。あるいはペーパータオルを使ってください。特に家族内感染が多いので、便器の清掃も重要です。乳幼児の場合はおむつの処理時に便が他の物に付着しないように注意してください。嘔吐物でも感染しますので同じような注意が必要です。処理をする人は使い捨て手袋、マスク、エプロン等を装着してから処理を行っ

てください。具体的には、汚物（下痢便や嘔吐物）が衣類に付いた場合は、まず衣類をビニール袋などに入れて周囲への汚染を防ぎます。汚染された衣類の消毒は85℃で1分以上熱湯消毒するか又は0.02%次亜塩素酸ナトリウムに30～60分浸します。その後、他の衣類とは別個に洗濯してください。

【ロタウイルス感染症】

ロタウイルス感染症は乳幼児で重症化します。典型的には突然の嘔吐で発症し、ひき続き白っぽい水様性下痢と発熱が起こります。我が国では毎年1～5月に流行します。重症化すると高度の脱水症や腎不全、痙攣重積（痙攣の頻発）、脳炎・脳症がみられることがあり注意が必要です。

ヒトは一生の間にロタウイルスに何度も感染しますが、感染の度に症状は軽くなっていきます。自然感染を2回経験すると重症化はしなくなります。

ロタウイルスワクチン（商品名：ロタリックス）は生後6週から接種可能で、生後24週までに4週間隔で2回経口接種します。これによって、入院治療を要するような重症化を95%予防できます。重篤な副作用としては腸重積症がありますが、初回接種後、特に1週間は嘔吐、血便などの症状に注意が必要です。しかし市販後調査では一般人口との腸重積症の差はほとんどないか僅かのようなです。接種料金は¥13,000です。

【ポリオワクチンのこと】

ポリオの世界的な現状は常在国は1988年には125カ国でしたが、2003年にはアフガニスタン、エジプト、インド、ニジェール、パキスタンの6カ国のみとなりました。また、患者の95%はニジェール、インド、パキスタンからのものです。

我が国の現状は1950年代には1500～3000例の患者発生がみられ1960年には5600名超の大流行が起こり1961年に経口弱毒生ポリオワクチン（OPV）の一斉投与方式が採用されました。これによって流行は終息し野生ポリオウイルスは1971年に3型が1株、1980年に1型が1株分

離されましたがそれ以後は発生はありません。1980年代初期に野生ポリオウイルスは根絶されたと考えられています。すなわち、現在の状態は皮肉なことにポリオワクチン由来株ウイルスによる健康被害が起こっている状態です。それを防ぐためにOPVを続けているのは永遠にポリオの根絶はありえません。ポリオ根絶のためには注射剤の不活化ポリオワクチン（IPV）によるしか方法はありません。現在我が国ではOPVのSabin株ワクチンを用いた不活化ポリオワクチン（sIPV）が開発され今年度中にも実用に供される予定です。私見ですが、輸入IPVを実施されている医療機関もありますが、諸外国で製造されているIPVはポリオウイルス強毒株を使用していることもあり、sIPVが接種可能になるまでは、今までどおりOPVを受けられるのがよいのではないかと思います。しかし、正直なところ私もどちらがよいのか分かりません。皆様がいるいろいろな情報を参考にしてください。

MEMO



- ☆ 大手町の夜間急病診療所（Tel:222-0099）では午後7時から11時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は1/29、2/23、3/18の予定です。
- ☆ 麻疹・風疹ワクチンの第3期（中学1年生）、第4期（高校2・3年生）を実施しています。必ず接種しましょう。
- ☆ 金沢市では任意接種のワクチンについての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。
- ☆ 世界の宝「憲法9条」を次の世代に贈りましょう。

